

平成31(令和元)年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(4月10日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①フレキシブルスクールから年次進行型の単位制普通科への教育課程の改編・充実を円滑に実施する。  ②授業改善に取り組み、生徒の主体的な学習活動を促進し、より深い学力の定着を目指す。	①年次進行型の定着を円滑に進めるとともに、新学習指導要領に対応した教育課程の検討を行う。  ②生徒の確かな学力の一層の定着を目指し、組織的に授業改善を推進する。	①制度や規定の更なる精査・見直しを行い、生徒の学習ニーズに応じた教育活動に取り組む。 ・新しい学習指導要領を見据え、年次進行型に則った教育課程の編成に取り組む。  ②生徒ひとり一人の実態を把握・分析し、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、組織的に授業改善に取り組む。	①年次進行型単位制の特徴を踏まえて、生徒のニーズを考慮した制度・規定の確立に取り組むことができたか。 ・新学習指導要領の学務的部分について、関係部署と協力しながら検討を進めることができたか。  ②教科会を通して生徒の実態に対応したテーマを設定し、各教科で研究を進め、基礎学力の定着を図る学びについて全体で共有することができたか。	①改定した年次進行型単位制の学務内規に基づいた運用を開始した。運用の初年度のため、問題点や改善点等を検討する。また、16期生4年次の前期卒業を実施し、後期卒業に向けた学務規定を実施している。  ②前後期に授業見学と教科会を行い、教科毎に研究成果をまとめた。全体会は12/2に実施した。ICTの活用方法や、アクションリサーチの実践について共通理解を図った。	①全年次における年次進行型単位制の実施を踏まえ、運用上生じた学務内規の問題点の洗い出しと検討を行い、修正を加えていく。また、新学習指導要領の実施に伴う学務的部分について、引き続き各部署と協力をして検討を行い円滑な実施へ向けた準備を進める。  ②授業でのICT活用については、教員それぞれが模索しながら取り組んでいる状況である。活用方法について研修会を設定したり、使い方について情報共有を図るなどして、積極的に活用していきたい。	①・諸問題を抱えながらの学務運営であったが適切に進められている。 ・単位制の特長を活かした単位認定や、卒業の認定について更なる検討を進めてほしい。 ②・グローバル社会においてこれからの担い手にはICTの活用は不可欠である。教員の努力に加え、専門家の協力が得られるとよい。 ・授業改善の取り組みは充実している。若手教員の成長に向けて、OJTと結合しての研修なども推進してはどうか。	①年次進行型単位制の定着を図ることに注力して、順調に学校運営を進行できた。新カリキュラム検討を見据えながら、単位制の特長を生かす方策を考えていく必要がある。  ②授業改善については、昨年の課題であったテーマの共有や教科を越えた取り組みを行うことができた。ICT利活用については、いっそうの充実を図る必要がある。	①新たな学習指導要領に基づく教育課程を検討しつつ、単位制の特徴を生かせるようさらなる検討を進める。  ②生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現のために授業改善を推進するとともに、ICTの有効な利活用のための方策を検討する。
2 生徒指導・ 支援	①学校行事、部活動の活性化を図り、多くの生徒に社会性や自己肯定感を育成する。  ②生徒個々の状況に応じ、一人ひとりを大切に教育相談、支援の取り組みを推進する。	①社会の一員としての規範意識を醸成するとともに、学校行事や部活動等の諸活動を通じて、自己肯定感を高めさせる。  ②生徒の実態について職員間で情報を的確に共有し、個々の課題解決に向け組織的に支援を行う。	①生徒会の主体的な活動を支援し、学校行事や部活動等を活性化させる。  ②新たな教育相談チームを設置し生徒に周知させ、対応していく。SC・SSW及び外部機関との連携などにより、組織的な支援体制を構築する。	①学校行事や部活動等の活性化に向け、生徒の取り組みを支援する企画運営の工夫を行ったか。その結果、学校行事の満足度や部活動加入率等に反映することが出来たか。  ②今年度より設置する教育相談チームの存在が生徒に周知されたか。また、各生徒の相談に対し、組織としての的確に対応できたか。	①部活動への興味について19期生にアンケートを実施し、部活動について考えさせるきっかけとした。桜陽祭では、ごみの減量化を食品販売企画のサブテーマとし、生徒の意欲を高めることが出来た。部活動合同発表会は学校説明会の後に体育館で実施し、昨年度までの課題の多くを解決することが出来た。  ②教育相談チームが組織化されたことにより、SC・SSWとの連携がしやすくなり素早く的確に生徒対応が行われた。また、定期的にチームで会議を持つことにより情報の共有化や課題解決もスムーズになった。	①年間のHR計画に即した学校行事の準備・内容を再検討するとともに、委員会活動や部活動の活性化のため、委員会の運営方法の工夫や、部活動の活性化を目指した手立ての検討を引き続き行う。  ②教育相談チームの会議が報告だけに終わる場合が多い。SC・SSWの意見を聞きながら、具体的な支援策の案を打ち出すには、会議の時間・頻度が足りないのが現状である。	①・部活動の活性化についてはアンケート実施などの積極的な取り組みが評価できる。 ・他校・地域など校外との繋がりはどのように持っているのか。桜陽祭で成功したごみの減量化についても地域へ広める等の広がりを持ってほしい。 ②・教育相談チームの設置は、生徒にとって有用であり、大変評価できる。 ・生徒を支援する体制を充実したものにするために、会議時間の確保・設定の検討が必要である。	①桜陽祭ではごみの減量化など新たな取り組みを進め、生徒の自覚ある行動を引き出すことができた。部活動の加入率には現れなかったが、今後につながる広報活動を充実させることはできた。  ②教育相談チームを組織として立ち上げて運用することができる体制を整えることができた。さらなる充実を図るため、会議時間を確保していく必要がある。	①学校行事や部活動の中で、生徒の自主性や自律性を伸ばせるよう、生徒会本部や実行委員会の活動をこれまで以上に支援する。  ②的確かつ迅速な生徒対応を進めるため、教育相談チームの活性化を図り、定期的な会議時間を確保する方策を検討する。
3 進路指導・ 支援	計画的、組織的な進路支援やキャリア支援を推進し、生徒一人ひとりが自らの資質や将来としっかり向	生徒の多様な進路希望に対して計画的、組織的に対応し、進路希望の実現を図る。	・諸活動を通して生徒のキャリア意識を喚起するとともに、生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導に取り組む。 ・試験結果等の分析的	・生徒が学校生活を振り返る場面を設定し、キャリア意識について気づきや学びを深めることができたか。 ・多様な生徒の進路希	①桜陽アカデミアや分野別説明会等を通じて、希望進路に応じたガイダンスを行った。また、生徒のキャリア意識を更に高めることをねらいとして、1年次は10月にクラス毎に8ヶ所の事	①継続的にキャリア形成意識を醸成し、将来自立した社会人を育てるため、次年度の総合的な探究(学習)の時間やキャリア教育行事について一層の充実を目指して、企画・	①職場見学等を多く実施していることは、生徒の自己肯定感の醸成に役立つものとして大いに評価できる。 ②ポートフォリオの有効	①職場見学を充実させることで、生徒のキャリア意識を喚起することができた。さらなる意識改革に向けて、キャリア行事の一層の充実を図る必要	①生徒のキャリア意識について深めることができるよう、職場見学のさらなる充実とその他キャリア行事の内容について引き続き検討

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(4月10日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		き合い、自ら進路を切り開こうとする態度を育む。		確に行うとともに、進路相談体制の充実を図る。 ・高大接続を踏まえた、新たな入学者選抜への体制を整える。	望に応じたガイダンスができたか。 ・大学入学者選抜改革に対応する研究を進めることができたか。	業所で職場見学、2年次は11月に希望別に10ヶ所で職場見学を実施した。 ②学校生活振り返りシートの研究を進め、学校行事や定期テスト等の区切りでポートフォリオを作成し、自己成長を図った。 ③大学入学者選抜改革に対応するよう、教員研修や外部機関との連携により、生徒に適切に情報提供を行った。	実施していく。 ②大学入学者選抜改革等について、生徒や保護者に適切に情報提供を行っていくため、更に研究を進め対応していく。	性が教科指導でも認められている現状からもポートフォリオの活用による進路支援をさらに進めてほしい。 ③・大学入学者選抜改革については、生徒主体で考えることができるよう県や国へ積極的に意見を出してほしい。また、生徒のみならず保護者に適宜、適切に情報提供をお願いしたい。	がある。 ②ポートフォリオの作成など、生徒の気づきや学びを深めるため、自らの振り返りの機会を設けることができた。 ③高大接続改革の進捗を見極めながら的確な情報発信を心がけた。次年度の大学入学者選抜の情報も生徒・保護者に迅速に伝えられるよう体制を整える必要がある。	して実行する。 ②ポートフォリオの検討を進めるとともに、各年次と連携して総合的な学習(探究)の時間の充実を図る。 ③国や各大学の情報を的確に把握し、迅速に発信できるよう組織的な対応を一層強めていく。
4	地域等との協働	①様々な場面で地域及び外部機関等と広く連携した教育活動の展開に努め、生徒の学びや経験の幅を深める。  ②外部に向けて積極的な情報発信に努め、本校の教育活動への理解と信頼が深まるよう取り組む。	①地域や外部関係機関と連携した教育活動の充実を図るとともに、地域へ貢献できる学校づくりを目指す。  ②保護者、地域へ情報の発信に努め、教育活動の理解を促進する。	①校外の教育活動やボランティア活動等の情報提供等を工夫し、生徒が主体的に参加できるよう働きかける。 ・学校開放や社会人聴講、コミュニティスクールなどを活用し、地域との連携を推進する。  ②授業紹介や授業での生徒の取り組みの様子、部活動や行事等の生徒の活動をHPに掲載する。	①古着回収活動やとつか区民祭り等のボランティア活動を通して生徒が地域と関わる活動に参加することができたか。  ②生徒の活動が具体的にわかるよう発信することができたか。	①校外講座に4名参加し、受講した。また、ボランティア活動では、戸塚区民まつりに6名、なかだふれあい祭りに10名参加した。古着回収活動については段ボール2箱分の子ども服を回収した。  ②スポーツ大会、桜陽アカデミア、部活動、修学旅行、授業紹介について掲載した。	①ボランティア入門講座を開催したり、ボランティアについての情報提供を増やすことにより、ボランティアに参加する生徒を増やしていきたい。  ②生徒の活動については、生徒の生の声も発信していきたい。	①今年度は中止となったボランティア入門講座や校内ボランティアセンターを活性化させ、ボランティアに参加する生徒を増やしてほしい。 ・SDGsの視点からの活動を、生徒の発想を生かし、生徒が中心に取り組む活動を支援してほしい。 ②HPが刷新され、非常に見やすくなっている。 ・情報発信に関してPTAとの連携を図り、相互の質・量を高めてもらいたい。	①早い段階から新3年次生に対し翌年度の校外講座について情報提供を行い、校外講座に複数の生徒が参加した。ボランティアについて自主的に活動できるよう工夫する必要がある。  ②HPの更新を迅速に行うことで学校行事や部活動などの情報発信を的確に実施することができた。	①校外講座・ボランティア活動ともに、生徒自らの活動として実施できるように情報提供をしっかりと行っていく。  ②保護者や中学生の知りたい情報を的確に把握し、わかりやすく迅速な情報発信ができるよう体制を整える。
5	学校管理 学校運営	学校生活が生徒の成長にとって有用なものでありかつ安全・安心な場であり続けることを目指し、創意工夫をもった取り組みを大切にす学校経営を進める。	①生徒が安全で安心できる学校生活を送れるよう教育環境の整備、充実を図る。  ②事故・不祥事の防止に向けて、職員一人ひとりの意識のさらなる向上を図る。	①年次進行型の教育課程に即した教育環境、施設整備を進める。 ・生徒による美化活動の充実を図り、環境向上への意識を醸成する。  ②職員の事故・不祥事防止について日常的に意識啓発を行い、事故・不祥事を防止する。	①昨年度から継続している施設整備および情報通信ネットワークの整備を進めることができたか。環境美化委員が継続してゴミの分別活動に取り組むことができたか。  ②事故・不祥事防止会議を定期的で開催し、「事故・不祥事ゼロ」を達成できたか。	①B館、A館の一部にWi-Fi環境が整備され、生徒の情報端末を接続できるようになった。また、ICT機器を活用した授業を行うことができた。 ・美化委員会活動を当番で毎日行い、清掃やゴミ分別に対する意識を高めた。  ②職員会議に先立ち事故防止会議を実施した。また、定期テスト・成績処理や年末などにおいて適宜注意喚起し、事故を防いだ。	①ChromeBookを使いやすいようなICT環境を整えていく。 ・環境美化委員が分別だけでなく、在校生に向け環境問題について発信していくようにする。  ②引き続き事故防止会議を実施するとともに、高い意識の維持に努める。	①Wi-Fi環境整備は先進的な取り組みであり、ハード面の対応は特に困難であるにもかかわらず適切に運用できているものと評価する。 ・台風等の災害による施設の安全性の低下を懸念する。随時、迅速な対応を望む。 ・フレキシブルでなくなったために生ずる環境への問題点(一斉に登校、休憩場所、購買等)への対応も保護者へ周知してほしい。 ②・事故防止について教職員が一丸となり防止に取り組んでおり、大変評価できる。 ・教員の働き方改革への対応についても引き続き取り組みをお願いしたい。	①校内におけるWi-Fi環境の整備に伴い、ICT機器を活用した授業を行うことができるようになった。Chromebookなどの備品管理をしっかりと行う必要がある 施設の安全性の確保が急務である。  ②事故・不祥事防止会議を定期的実施し、未然防止につなげることができた。働き方改革を視野に入れた取り組みを充実させたい。	①校内のWi-Fiを活用した授業とともに、オンラインを活用した授業の在り方について研究を進める。 学校施設については、未然の事故防止となるよう日常の点検・整備など着実にを行い、修繕すべきところは迅速に対応していく。  ②事故・不祥事について、常に当事者意識を継続できるよう防止会議の形態を工夫していく。

